

コケ植物 屋久島で調査

主任研究員 秋山弘之さん

希少種 フウチ ヨウゴケ 確認

ひとはくが発行する研究紀要に、私たちのチームが屋久島で行ったコケ植物の調査論文が掲載されています（秋山他 2013、人と自然24号21-31頁）。ひとはく、広島大学、千葉中央

ひとはく
研究員
だより



博物館のコケ植物研究者5名が3年がかりで、全島を歩き回った調査にもとづく論文です。もともとは、シカによる高等植物の食害を調査する目的で九州大学が企画した研究なのですが、地元屋久島からの強い要望もあって、コケ植物につい

屋久島で3年間をかけて行った調査の様子



フウチ ヨウゴケ



ても調査したのでした。私たちが実施した調査というのは、幅2メートル、長さ100メートルの調査区を、全島の登山道沿い500区ごとに設け、調査区の中に生育するコケ植物をすべて調べあ

げるといふものです。1区画の調査には約2〜3時間かかりますので、どんなに頑張っても一日に3区画しか調査できません。中でも尾之間から永田へと全島をほぼ縦断する登山道は全長32キロと非常に長く、登山道の中の辺りでは、たった

1区画を調査するために半日歩いて調査区にたどり着き、また半日かけて戻るという日が何日も続きました。

屋久島からこれまでに報告されたコケ植物は、蘚類44科160属376種、コケ類37科87属308種、ツノゴケ類1科5属6種、合計82科252属690種に上りました。日本にはおよそ1800種が知られているので、屋久島だけでその3分の1以上が見つかった

いることになりました。そんな中で特に思い出深いのは「フウチヨウゴケ」です。フウチヨウゴケは東南アジアの温帯に広く分布する蘚類ですが、日本では70年

以上前に屋久島と静岡県のみならずか2カ所だけから報告のあった極めて珍しいコケです。絶滅したとも考えられていたのですが、屋久島の調査区内で見つかりました。その後、屋久島の沢沿いには結構いろいろな場所に生育していることが分かってきました。一度見つかると、その後にくつても報告が続くというのはよくあることで、そもそも人間の認識というのはそういうものなのでしょう。

屋久島には希少種が多いだけでなく、標高600メートルより高い場所はコケ植物に覆われた景観が広がっています。今やコケ植物の三大聖地の一つであることが、観光の目玉にもなっています。機会があればぜひ一度訪れてみてください。